

2003年9月30日発行

熊本県地域福祉メールマガジン

月刊「みんなでのしこ輪になって」No. 8

【発行】 熊本県健康福祉部福祉のまちづくり課地域福祉企画班

---

今年は9月になってからも厳しい残暑が続きましたが、ここ1週間ほどで一気に秋になってしまった感があります。スポーツの秋、読書の秋など一人ひとりが様々な活動(?)に打ち込むこの季節、福祉のまちづくり課地域福祉企画班でも地域福祉支援計画の策定作業が佳境を迎えています。

目次

他県情報

宮城県 岩沼市保健センター (精神障害者コミュニティサロン事業)

宮城県 宮城県福祉事業団県北福祉センター

## トピックス

### 障害児夏休みデイサービス事業」事業実施報告会について

## 他県情報

宮城県 岩沼市保健センター 精神障害者コミュニティサロン事業

宮城県 宮城県福祉事業団県北福祉センター

宮城県の岩沼市保健センターで行われている、精神障害者コミュニティサロン事業を紹介します。

平成13年7月事業開始されたこの事業は、閉じこもりがちな精神障害者へ、つどいの場を提供することで外出の機会を増やし社会復帰の一助とすること、また、様々な障害レベルの人が集うことで、再発予防のために回復モデルを学んだり障害受容への足がかりとすることを目的としています。

対象者は原則として岩沼市内に住所を有する方で、14年度中は20人前後の登録がありました。1回平均6～9人の利用があるそうです。

具体的な内容としては、手芸、調理実習などの各種講座の他、居場所の開放や、社会復帰をしている精神障害者によるピアカウンセリングなどで、入退院の繰り返しだった人や、引きこもり気味の人に改善が見られているそうです。また、サロンから小規模作業所（工房あすなろ、同センター内に入居）に通う方も出てきました。家族にも好評で、安心して仕事に専念でき、自分の時間が持てるようになったとの声が多数寄せられています。

今のところ、小さなトラブルはあってもけがや事故は発生していないとのこと。市でも活動の中身や事業の成果を周知する機会もあり、今で

は市民にも受け容れられ、議会からも内容をワンステップ上げてもいいのではと提案があるほどです。

精神障害の分野は、法律先行で市町村の業務と自覚していなかったため、手つかずの状態だったが、成功の秘訣は、市長の思い、専門医が近くにあったことと、保健師はじめスタッフのやる気であるとのことでした。

宮城県古川市の宮城県福祉事業団県北福祉センターは、精神障害者地域生活支援センター、大崎地域障害児(者)生活支援センター“さてら”、障害者就業・生活サポートセンター、地域交流スペースからなります。

精神障害者地域生活支援センターでは、日常生活支援のための情報や場所の提供、外出の際の同行サービスなどを行っています。大崎地域障害児(者)生活支援センター“さてら”は、知的障害者グループホームやホームヘルプサービス事業などを通して、知的障害児(者)が地域で豊かな生活を送るお手伝いをしています。

街の真ん中にあり、新幹線の駅も近いなど立地条件が良く、古川市だけでなく市外からの利用もあります。機能として、色々な生活相談、生活支援、就労支援(プラン作成)など障害の種別を問わず各種のサービスが受けられ、障害者の集うサロンも恒常的に開設されています。別々の実施主体が一堂所に集まり、障害者支援を総合的に実施しており、これからの支援体制のあり方として参考になるのではないのでしょうか。

## トピックス

「障害児夏休みデイサービス事業」事業実施報告会について

9月24日、県健康福祉部子育て・介護支援推進課所管の「障害児夏

休みデイサービス事業」の事業実施報告会が県庁でありました。この事業は、放課後と夏休み期間中の障害児の健全育成と家族の介護負担を軽減することで、障害児とその家族がいきいきとした生活を送ることができるようになることを目的として市町村が実施する事業です。夏休みや放課後の障害児の預かりについては、保護者から以前より強い要望があり、昨年は2市町での実施だったものが、今年28市町村での実施となったものです。実施箇所は知的障害児のみのところが12ヶ所、重度心身障害児を含むところが5ヶ所の計17ヶ所でした。事故は全くなかったそうです。

報告会では、子育て・介護支援推進課から実施状況などの説明があった後、宇土市、玉名市、宮原町の市町職員・委託運営先職員から事業の実施報告がありました。

共通の状況として、保護者に非常に喜ばれたことがあげられると思います。アンケート結果でも、「本人が喜んで行っていた」「親自身の休息がとれた」という感想が多かったようです。

また、各施設とも、ゲームや創作活動の他、プールや遠出ドライブなど様々なプログラムを組んでおられたり、痴呆高齢者のプログラムに参加したりと、利用者の子どもたちも大変楽しんでいただけたことでした。

障害児と高齢者などとの交流が生まれたところもあります。職員が特に気を遣わなくても、自然に高齢者が子どもたちを気遣ったり、高齢者や学童保育との交流で子どもたちの表情や会話が変わったりした様です。

実施場所によって重症心身障害児の子供が多かったり、子どもたちの年齢が離れているなど状況も様々で、受入先の施設などの柔軟な対応により、介護度が高い方々がいればボランティアではなくアルバイトで対応したり、痴呆高齢者デイケアの看護師が万が一に備えたりされていたことなどです。

今年初めて事業を実施したところが多かったため、来年以降に向けての課題もたくさん見つかったようです。まず、多かったのが、ボランティアの確保に苦労したという意見です。地元の中学・高校・大学などに声をかけてはみるものの、学校の課外が入ったり、既に他のボランティアをすることが決まっていたりなどです。これについては、来年はもっと早くボランティアの募集をする、募集方法を検討するなどの解決策が発表されていました。

とはいえ、どこも何とか直前には必要数を確保できたようで、全実施場所でのボランティア延べ人数は1,574名にも達したとか。

また、ボランティアと同様に実施場所の確保に苦労したところもかなりあったようです。夏休み期間中の1月以上の間空いている場所はなかなか見つからなかったり、ようやく見つかったも、場所の都合で日によって部屋を転々としなければならなかったり。この点についても、場所を来年は早めに押さえたいとのことでした。しかし、公民館で実施した市からは、本当は市の施設を利用した方がよいのかもしれないが、地域との交流ということを考えると、公民館を利用したのはよかったです」という意見も聴かれました。

この他にも、反省点がいくつか発表されましたが、今年初めて事業を行ったところがほとんどであり、反省点の発表というより、より良いサービスを、よりスムーズに提供したいという意気込みの表れであると思われました。来年以降(冬休み・春休みにも利用したいという声も多かったようです)は、実施する市町村もさらに増えて、(報告会には、今年実施した市町村だけでなく、来年実施したいと考えている市町村も多数参加していました)今年よりさらに充実したサービスが期待できると確信しました。

熊本県地域福祉メールマガジン

月刊「みんなでたのしく輪になって」No.8

【発行】 熊本県健康福祉部福祉のまちづくり課地域福祉企画班

-----  
記載内容に関するお問い合わせ、情報提供、ご意見、配信の解除、メールアドレスの変更など一切の連絡は、熊本県健康福祉部福祉のまちづくり課地域福祉企画班へお願いします。

E-mail:fukusimati@pref.kumamoto.lg.jp

TEL:096-383-1185

FAX:096-387-5992